

＜天上の華＞秋の彼岸（秋分）に咲く花といえば何をさておき曼珠沙華(マンジュシャゲ)、ヒガンバナです。この花ほど「めでたい」と思われたり逆に「縁起が悪い」と嫌われたりする花は他にないでしょう。それほどに昔から人々に密着してきた花で先の2つに加え1000以上もの名があるとのこと。ヒガンバナの名の通り彼岸の頃になると地中からによきによきと茎を立ち上げ豪華な花を付けます。曼珠沙華は仏教経典に現れる“マンジュサカ(サンスクリット語):天上の華”で“めでたい兆し”とされます。沢山の短歌、俳句や詩に詠われています。明るいのもあれば暗いのも…感じ方にも依りますね。「つきぬけて天上の紺曼珠沙華(山口誓子)」赤い花とそのむこうの青空に天上の華を!! 空をバックにした一輪のキバナコスモスも野原一面に広がる賑やかな橙色のものとはまた趣が違います。



＜マンジュシャゲ＞

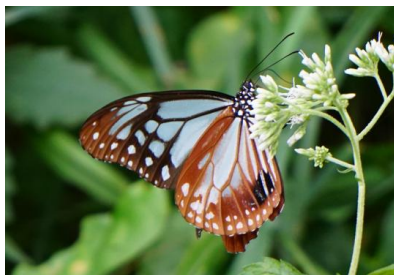
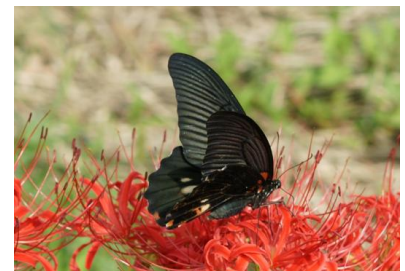


＜右上:キバナコスモス、右下:ノダケ＞

＜白に紫＞雑木林の縁辺にはヒヨドリバナ、ヤマウドやシシウドの白い花が一面に咲いています。そんな中に沢山の紫のつぶ粒を包んだ大きな蕾が目につきます。花が開くと大きな傘のようになり、草丈は優に1mを越え茎も太く葉も大きく何となく荒々しい感じがします。シシウドの仲間の“ノダケ”で、根は解熱鎮痛の民間薬“前胡(ぜんこ)”になります。



＜稔の秋、瞑想の秋＞艶々とした大粒の栗の生っている姿を見ると豊かな気持ちになりますね。雑木林ではクヌギ、ナラやシイの実も大きく膨らんでいます。一方、ビオトープではナツハゼが色づき暗赤色の小さな実を付けています。その赤い葉にシュレーゲルアオガエル(右写真)がぴったりと貼り付いていました。7月の末から久方ぶりの姿で、瞑想にふけているように見えます。



＜アサギマダラ＞

＜もうひと頑張り＞ほんの十日ほど前までは蝉の声がよく聞こえていたのですがぱったりと静かになりました。カブトムシなどはずっと早く姿を消しました。一方、チョウは春先から頑張っていますね。ヒヨドリバナの蜜を吸っているのはアサギマダラ、マンジュシャゲにはナガサキアゲハ、そしてエノコログサにはスジグロシロチョウです。



(文と写真:松本正勝) <右上:ナガサキアゲハ、右下:スジグロシロチョウ>